

# 和歌山未来学副専攻報告書 (和歌山市役所都市再生課)

和歌山大学経済学部3年 白濱一真

## 1.はじめに

これまでの地域協働演習では、和歌山城での企画の考案や和歌山市内にある京橋親水公園での清掃活動などを行ってきた。いずれの活動も、自分たちで考えて行った活動であるため、本来のまちづくりの現場や行政の役割などを実際に学ぶことは難しかった。そのため、地域協働演習Advでは、自身が志望する和歌山市役所でのインターンシップを通してまちづくりの現場を体験し、その詳細を知りたいと思い活動した。

## 2.目的

- まちづくりの現場を体験する
- まちづくりにおける行政の役割を知る
- まちづくりにおける行政と民間の関係性を知る

## 3.活動内容

### ● 地域イベントへの参加

商店街の方々とともに、屋台の設営や後片付け、定例会議への参加などの活動を行った。

#### IN THE LOOP

令和5年10月1日～令和5年10月31日まで開催された、和歌山市の中心部で行われるイベントを徒歩や自転車等様々な手段で周って楽しむという趣旨の社会実験企画。

#### 北ぶらりメンバーMARKET

毎月第2日曜日開催のイベント。飲食ブースやフリーマーケットなどが出店。

#### 北ぶらはじめ食堂

毎月第1火曜日の午前7時から開催される朝ごはんマルシェ。商店街の方は、朝5時から屋台の設営を開始。



### ● 社会実験への参加

居心地がよく歩きたくなる道路空間の検討を目的に実施された社会実験。社会実験の効果を図る人流調査や、イベントのスタッフとして参加するといった活動を行った。

## 4.気づき・学び

- 和歌山市では民間が主体となり、行政は支援という形でまちづくりが行われている。
- 地域の方々が主体となりまちづくりをしていくことで、持続可能なまちの実現や地元住民のニーズが反映されやすいまちを作ることができる。
- まちづくりといっても、交通や商業、エリアマネジメントなど様々な分野からの取り組みがあるため、どのような形でまちづくりに関わりたいかということを確認する必要がある。
- まちづくりに関するイベントや商店街の運営は、地元住民の方々や民間企業、市役所、警察など様々な人の協力により成り立っているという裏側がある。それぞれの都合のすり合わせや、ニーズの把握など困難が多い。
- イベントの実施も重要だが、イベントという非日常的なものだけではなく、公共空間や空き店舗の活用などの日常的な取り組みも必要である。